

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>認 可 時 (18年11月)</p>	<p>・大学設置基準第18条第3項を踏まえ、学生の定員管理を適正に行うこと。</p>	<p>・平成24年度は東日本大震災の影響を強く受け、入学者148名と開設以来初めて入学定員を下回った。在學生は920名となり、平均入学定員超過率は1.01倍となっている。(24)</p>	
		<p>・平成23年度は166名の入学者があり、開設以来継続して入学定員を確保することができた。一方で退学者も発生し、在學生は796名となった。平均入学定員超過率は1.03倍となっている。(23)</p>	
		<p>・平成22年度は163名の入学者があり、開設以来4年連続して入学定員を確保することができた。しかし、一方で近年の学生気質や社会情勢を反映した退学者も増加し、在學生は645名となった。平均入学定員超過率は1.04倍となっている。(22)</p>	
		<p>・平成21年度は172名が入学し、開設から3年続けて入学定員を確保することができた。一方、進路変更等による退学者は、これまでに9名を数え、在學生は3学年で495名となった。収容定員に対する定員超過率は1.03であり、概ね適正な定員管理ができている。(21)</p>	
		<p>・平成20年度の入学者は161名と入学定員160名をほぼ遵守する形となった。今後も適正な定員管理に向けた努力を継続していく。(20)</p>	
		<p>・入学定員160名に対し171名が入学し、定員超過率は1.06となった。引き続き適正な定員管理を行うべく鋭意努力していく。(19)</p>	

<p>認可時 (18年11月)</p>	<p>・実務実習については、関係機関との確実な連携を図り、必要な実習先を確保するとともに、十分な教育効果をあげることができるよう着実に実施すること。</p>	<p>・滞りなく完了した平成23年度の実務実習に引き続き、各施設との連携を密にした実習準備を行っている。平成24年度からは実習先の指導薬剤師に対し、臨床教授等の称号授与も予定されている。(24)</p>	
		<p>・平成23年5月16日から開始される実務実習に向け、直前ガイダンスや白衣授与式の挙行などを行っている。(23)</p>	
		<p>・平成23年度から実施する実務実習に係る学生受入施設については、東北地区病院・薬局実務実習調整機構との連携の下、6月の報告に向けて最終調整を行っている。(22)</p>	
		<p>・平成23年度からの実務実習開始に向けて、東北地区病院・薬局実務実習調整機構と連携しながら、精力的に準備を進めている。また、岩手県薬剤師会、岩手県病院薬剤師会等の関係団体との連絡協議のため、設置計画に基づき、「岩手医科大学薬学部実務実習連絡会議」を立ち上げ、具体的な検討を開始した。本年7月には、関係機関の協力を得て、フルスケールでのOSCEトライアルを実施し、万全の態勢を整える。(21)</p>	
		<p>・東北地区病院・薬局実務実習調整機構との連携のもと、病院・薬局訪問を実施している。また、早期体験学習や就職支援活動等の取り組みを通して、関係機関等との連携を強め、実務実習受け入れ施設の確保に向けた自助努力を行っている。さらに、実務家みなし専任教員の就任を前倒しとし、実務実習開始に向けて準備を進めている。(20)</p>	
		<p>・平成23年度からの実務実習開始に向けて、東北地区病院・薬局実務実習調整機構と連携を図りながら準備を進めている。引き続き、関係機関と連携の上、実務実習受け入れ施設の拡充と指導薬剤師の養成及び質の向上に努めていく。(19)</p>	

<p>認可時 (18年11月)</p>	<p>・地域の人材需要を反映した教育内容の充実と卒業後の進路の確保に努めること。</p>	<p>・キャリア支援センターによるインターンシップやセミナーに加え、公的就職あっせん機関との提携により就職アドバイザーが常駐することとなり、学生の就職相談に常時対応できるようになった（24）</p>	
		<p>・平成22年度は専任部署であるキャリア支援センターが開設され、インターンシップやセミナーの開催等、これまで以上にきめ細かい支援を行った。今後は、就職支援システムによる学生と企業のマッチング、実践的な面接の練習など、さらに精力的に取り組んでいく。（23）</p>	
		<p>・平成21年度は、就職支援プログラムに基づき、キャリアガイダンス、業種別特別講演、公務員対策講座を実施した。また、父兄や教員を対象とした就職支援講演会を開催する等、より踏み込んだ支援を行った。平成22年度からは、インターンシップや各種セミナーの開催等、一層きめ細かく充実した支援を計画している。さらに、学生受入先の開拓を積極的に展開するため、専任部署の設置を決定した。（22）</p>	

<p>認可時 (18年11月)</p>		<p>・本学は、岩手県及び北東北における地域医療の中核を担うとともに、これまでに多くの誠実な医療人を輩出してきた。この伝統と使命を全うすべく、薬学部の新設を機に、医療系総合大学として特色ある教育を展開している。医・歯・薬の三学部合同の教養教育の実践や知育・徳育・食育を通した全人教育を行う学生寮の設置は、将来チーム医療を担っていく上での人間関係構築に大きく寄与するものと考えている。また、附属病院との連携により、最前線で働く者による「職業と人生」の講義や早期体験学習をカリキュラムに取り入れることで、医療人としての意識の早期醸成に効果を上げている。学生の就職支援についても、地域の中核を担う人材育成を企図した「いわて高等教育コンソーシアム」を通した連携を主管校の岩手大学と確認した。さらに、地域に根差した就業促進を図るため、ジョブカフェいわてからの支援も確認した。今後は、全国に展開する同窓会組織を有機的に活用し、一層幅広い就職支援を行うこととしている。(21)</p>	
		<p>・医療現場の最前線で働く者による講義「職業と人生」のほか、本学附属病院の医師、看護師、薬剤師の指導による心肺蘇生法講習や感染対策講習、調剤体験や地元企業訪問等の早期体験学習を実施し、医療人（特に地域医療に根差した）としての心構えの醸成に努めている。また、就職支援委員会を立ち上げ、病院・開局薬剤師や公的研究機関の研究者による特別講演会を実施し、職業意識の向上を図っている。就職情報コーナーには検索用にPCを4台設置し、インターネット環境を整備の上、学生に開放したほか、就職関係の書籍や求人票を公開し、情報提供にも努めている。(20)</p>	

認可時 (18年11月)		<p>・入学者の出身地別の分布を見ると、岩手県の43.3%を筆頭に北東北3県で63.8%、東北6県では87.2%に達しており、強い地元志向が窺われる。これは、本学の地域医療への貢献が評価されたものであり、東北地区からの人材の流出に一定の歯止めをかけることができたものと考えている。引き続き、地域の声に耳を傾けながら、医科大学としての特性を活かした、より実践的な教育を実践し、優秀な人材の輩出に努める。学生には、早期から就職に対する意識付けを行う。様々な分野で活躍する医療人による講義「職業と人生」を開講する他、病院・薬局・製薬会社・公務員など将来、活躍が予想される職場の訪問や実体験を行う「早期体験学習」をこの秋に実施する。さらに、薬学部で就職支援委員会を立ち上げ、就職支援プログラムを構築した。今後、学生個々のキャリアデザインに基づくきめ細かい指導を行うと共に、薬剤師としての活躍の場のみならず、幅広い進路に対応できるよう各方面に働きかけていく。また、就職情報コーナーを設置し、書籍・資料の閲覧、検索用のPC4台の開放など情報提供にも努めている。(19)</p>	
設置計画履行状況 調査時	該当なし	該当なし	該当なし

- (注) ・ 「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。